

中間総括と今後の方針



1. インフラツーリズムのこれまでの取組
2. インフラツーリズムの課題
3. 今後の取組の方向性(案)

1. インフラツーリズムのこれまでの取組

(1) インフラツーリズムの理念

- インフラツーリズムは、インフラへの理解を深めていただくため、普段訪れることのできないインフラ施設の内部や、日々変化する工事中の風景などの非日常を体験するツアーを地域と連携して展開することにより、地域に人を呼び込み、地域活性化に寄与することを目指すもの。

<目指す方向性>

- インフラへの理解を深める
- 地域に人を呼び込む
- 地域との連携を拡大する

1. インフラツーリズムのこれまでの取組

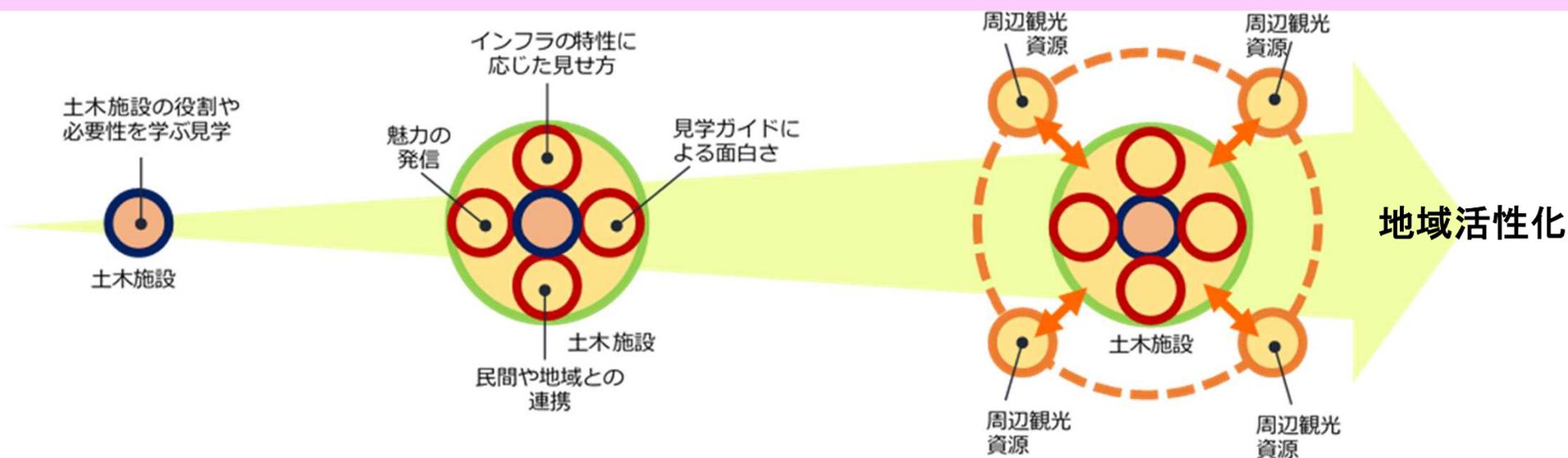
(2) インフラツーリズム拡大の考え方

- 土木広報からスタートした見学会に付加価値を付けることにより、施設の魅力がアップする。
- さらに周辺の観光資源と連携することにより、地域活性化に寄与する。

インフラツーリズムの理念(イメージ)

(土木広報 + α の付加価値) × 周辺観光資源

地域活性化



■土木広報

土木施設の役割や必要性を伝える

■土木広報 + α の付加価値

インフラの特性に応じた見せ方、見学ガイドによる面白さ、魅力の発信、民間や地域との連携などの付加価値を付ける

■(土木施設 + α の付加価値)

× 周辺観光資源

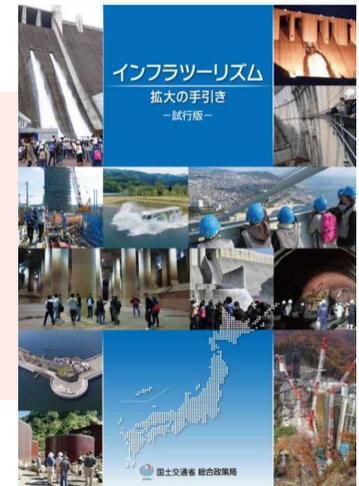
周辺の観光資源などと連携して、地域の魅力度を高め来訪者の滞在時間を増やし地域活性化を図る

1. インフラツーリズムのこれまでの取組

(3) 平成30年 インフラツーリズムの有識者懇談会の設立

●平成31年 「インフラツーリズム拡大の手引き－試行版－」の作成

- ・平成31年3月に公開
- ・先進事例からの知見を「勘所」として整理



●令和元年 インフラツーリズム魅力倍増プロジェクトの立ち上げ

【プロジェクト・メニュー】

1. モデル地区での社会実験の実施

→社会実験を実施し、知見を様々な事業へ展開する

2. 国内外に向けた魅力ある広報を展開

→インフラツーリズムの認知度を高め、来訪者の増加を図る

3. 訪日外国人旅行客のニーズを把握したインバウンド対応

→増加する訪日外国人旅行客の旅行ニーズを把握し適応する

1. インフラツーリズムのこれまでの取組

(4) モデル地区での社会実験の実施

令和元年度選定

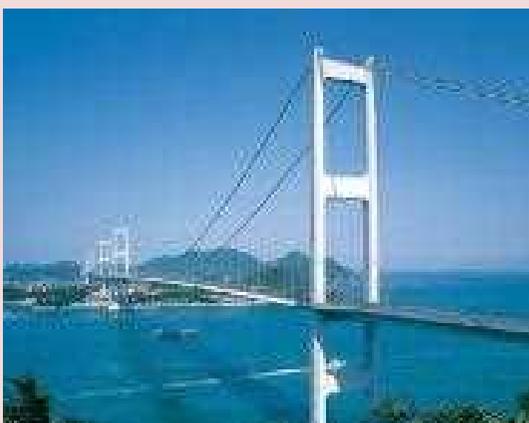
なるこ
①鳴子ダム
【宮城県大崎市】



あまがせ
③天ヶ瀬ダム
【京都府宇治市】



くるしま
④来島海峡大橋
【愛媛県今治市】



やんば
②ハツ場ダム
【群馬県吾妻郡長野原町】



つるだ
⑤鶴田ダム
【鹿児島県薩摩郡さつま町】



令和2年度選定

はくちょう
⑥白鳥大橋
【北海道室蘭市】



くさかがわ
⑦日下川新規放水路
【高知県高岡郡日高村】



1. インフラツーリズムのこれまでの取組

(5) 国内外に向けた魅力ある広報を展開

- 平成28年1月にポータルサイトを開設し、令和2年9月にリニューアル
- 各モデル地区において多言語版のパンフレットを作成

インフラツーリズムポータルサイト

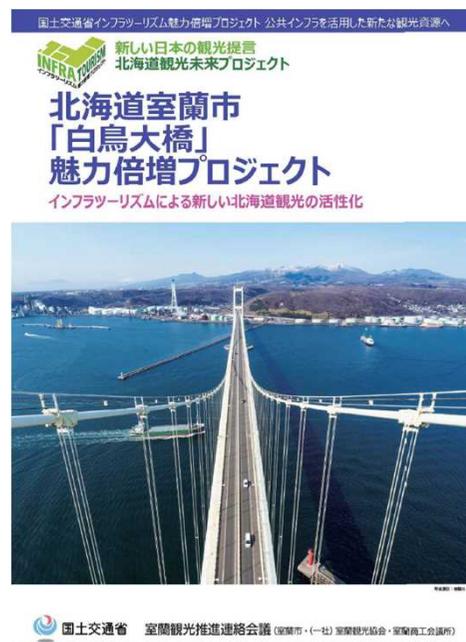


▲ H28.1～R2.9

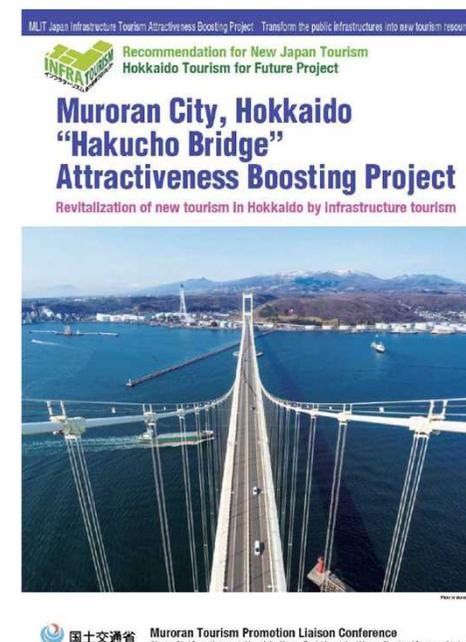


▲ R2.9～

多言語版パンフレットの作成



▲ 白鳥大橋(日本語版)



▲ 白鳥大橋(英語版)

1. インフラツーリズムのこれまでの取組

(6) 訪日外国人旅行客のニーズを把握したインバウンド対応

○既に集客のあるインフラ施設において、受入環境整備(案内板の多言語化等)を実施

多言語化の例



▲案内マップ(渡良瀬遊水池)



▲展示パネル(豊平峡ダム)

2. インフラツーリズムの課題

■ インフラツーリズム魅力倍増プロジェクトでの取組と課題

【プロジェクト・取組】

1. モデル地区での社会実験の実施

→社会実験を実施し、知見を様々な事業へ展開する

<取組>

- ・モデル地区7箇所を選定して取組を実施
- ・4箇所で民間主体のツアーを開催

2. 国内外に向けた魅力ある広報を展開

→インフラツーリズムの認知度を高め、来訪者の増加を図る

<取組>

- ・ポータルサイトによるツアー紹介
- ・多言語版のパンフレット作成

3. 訪日外国人旅行客のニーズを把握した インバウンド対応

→増加する訪日外国人旅行客の旅行ニーズを把握し適応する

<取組>

- ・受入環境整備(案内板の多言語化等)

【課題】

- ・インフラ施設の分野に偏りがある
- ・地域と連携した集客性、収益性のある取組事例が少ない
- ・モデル地区の知見の全国展開が不足

- ・プッシュ型の広報ができていない
- ・魅力を伝えるコンテンツが不足

- ・コロナ禍でインバウンドの動向が把握できていない

3. 今後の取組の方向性(案)

【課題】

- ・インフラ施設の分野に偏りがある
- ・地域と連携した集客性、収益性のある取組事例が少ない
- ・モデル地区の知見の全国展開が不足
- ・プッシュ型の広報ができていない
- ・魅力を伝えるコンテンツが不足
- ・コロナ禍でインバウンドの動向が把握できていない

【今後の取組の方向性(案)】

分野を意識した新たなモデル地区における取組
(少なくとも1~2事例はダムや橋以外)

様々な施設での検討

- ・集客のある観光資源周辺に眠ったインフラにおける取組
- ・魅力あるコンテンツの強化

拡大の手引きの普及

- ・説明会の実施
- モデル地区成果発表会の実施

魅力発信手法の検討

- ・SNSや旅行雑誌等の活用
- ・魅力ある動画によるPR

インバウンドの動向を踏まえた取組の検討

- ・ニーズ把握
- ・受入環境整備